

平成29年4月26日

青森県教育委員会第309回臨時会

期 日 平成29年4月26日(水)
場 所 教育庁教育委員会室

会 議 次 第

1 開 会

2 その他

○青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画(案)につ
いて 1

3 閉 会

[その他]

青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画（案） について

資料1：青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画（案）

資料2：青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画（案）の概要

青森県立高等学校教育改革推進計画
第1期実施計画（案）

平成29年4月26日

青森県教育委員会

目 次

第1	第1期実施計画策定の経緯	1
第2	学校・学科の充実	3
1	全ての高校に共通して求められる教育環境	3
2	全日制課程	5
(1)	普通科等	5
(2)	職業教育を主とする専門学科	7
(3)	総合学科	13
3	定時制課程・通信制課程	14
(1)	定時制課程	14
(2)	通信制課程	15
第3	学校規模・配置	16
1	全日制課程	16
(1)	県全体の中学校卒業予定者数及び募集学級数	16
(2)	地区ごとの学校規模・配置計画	17
(3)	計画的な統合に当たっての留意事項	27
(4)	地域校への対応	27
2	定時制課程・通信制課程	28
(1)	定時制課程	28
(2)	通信制課程	28
3	統合・募集停止等の実施年度	29
(1)	全日制課程	29
(2)	定時制課程	29
第4	県民の理解と協力の下での県立高等学校教育改革の推進	30
1	推進計画の進捗管理	30
2	第2期実施計画の策定	30

第1 第1期実施計画策定の経緯

(青森県立高等学校将来構想検討会議における検討)

- 県教育委員会では、平成26年6月、社会の変化や生徒数の急激な減少に対応し、生徒の夢や志の実現に向けた知・徳・体を育むための県立高校の在り方について「青森県立高等学校将来構想検討会議」へ諮問し、同会議における約1年半にわたる審議を経て、平成28年1月に答申を受けました。

(基本方針の策定)

- この答申を踏まえ、将来、高校教育を受けることとなる子どもたちのための教育環境づくりに向け、平成30年度以降のおおむね10年間を見据えた県立高校教育改革に関する基本的な考え方を示す「基本方針」と基本方針に基づく学科改編や地区ごとの具体的な学校規模・配置等を段階的に示す「実施計画」（第1期実施計画期間：平成30年度から5年間、第2期実施計画期間：平成35年度から5年間）により構成する「青森県立高等学校教育改革推進計画」を策定することとしました。
- 基本方針については、案を公表し、広く県民の皆様の御意見を伺いながら検討を重ね、平成28年8月3日に策定しました。

この基本方針では、計画策定の趣旨として、「本県の生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育むこと」、「全ての高校において、特色ある教育活動を推進し、本県の未来を担う人財の育成に取り組むこと」を掲げ、学校・学科の充実、学校規模・配置の方向性、魅力ある高等学校づくりの各項目について、基本的な考え方を示しました。

(地区意見交換会の開催)

- 平成30年度から平成34年度までの5年間に実施する具体的な内容を示す第1期実施計画の策定に当たっては、重点校、拠点校、地域校※の試案を公表するとともに、平成28年9月から平成29年1月まで、県内6地区において各3回の地区意見交換会を開催し、市町村教育委員会教育長、小中学校長等の学校教育関係者、PTA関係者、産業界関係者等から各地域の実情に即した幅広い御意見を伺ってきました。

※ 「重点校」は、普通科等の高校において、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定の分野の学習における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う高校であり、重点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等により、重点校と各校が連携し、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図るものです。

「拠点校」は、農業科、工業科及び商業科の高校において、各地区の産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえ、各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点となる高校であり、拠点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等により、拠点校と各校が連携し、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図るものです。

「地域校」は、学校規模の標準(P2参照)を満たさない高校のうち、募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生じることとなる高校であり、地域における通学状況を考慮した上で配置するものです。

- 地区意見交換会においては、各地区に共通して、「生徒の将来を第一に考えた高校教育改革であるべき。」との意見があったほか、「生徒が様々な経験を積み、成長することができるよう、学校規模を維持して、充実した教育環境を整備してほしい。」という一定の学校規模が必要であるとの意見や、「通学に係る負担を考慮し、1学年1学級規模となっても地元の高校を存続してほしい。」という各地域の実情への配慮を求める意見等がありました。

また、重点校や拠点校に関しては、「高校生が目標や夢を持つことができるよう、重点校、拠点校の名称やその役割を浸透させてほしい。」、「重点校、拠点校の名称が先行し、本来の目的が伝わらない懸念があることから、丁寧に説明してほしい。」などの意見がありました。

さらに、地域校に関しては、「仮に地域校の入学者数が減少し、募集停止となった場合であっても、高校教育を受ける機会の確保に配慮した学校配置とすべきである。」などの意見がありました。

(第1期実施計画の策定・推進)

- 第1期実施計画は、基本方針を踏まえるとともに、地区意見交換会における意見等を参考としながら、具体的な取組を取りまとめたものであり、次の観点に意を用いて取り組むものです。

(充実した教育環境の整備)

- ・ 全ての高校において、生徒の進路志望や地域の期待等に応えることができるよう、それぞれの特色を生かした魅力ある教育活動を推進する。
- ・ 今後求められる人財を育成するため、各学科の特色ある教育活動の中核的役割を担う高校を配置し、これらの高校と各校との連携した取組により、県全体の高校教育の質の確保・向上を図る。
- ・ 生徒数が急激に減少する中であっても、生徒の多様な進路志望等に対応できる学科の選択肢を確保するとともに、生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育むため、統合等を含め、学校規模の標準※を踏まえた計画的な学校配置を行う。

(各地域の実情への配慮)

- ・ 高校教育を受ける機会を確保するため、生徒の通学環境や地域における高校の役割等に配慮して学校配置を行う。

- 第1期実施計画の策定に当たっては、案を公表し、県民の皆様にご説明した上で御意見を伺う機会として地区懇談会を開催するとともに、パブリック・コメントを実施するなど、より多くの御意見をいただきながら検討を重ねてまいります。
- 第1期実施計画決定後は、本計画に基づく各取組を着実に推進するとともに、高校教育を受ける機会を確保しながら、計画的な学校規模・配置を進め、本県の未来を担う人財の育成に取り組めます。

※ 学校規模の標準

- | | | |
|-------------|---|---------------------|
| ・ 基本となる学校規模 | … | 1学年当たり4学級以上 |
| ・ 重点校の学校規模 | … | 1学年当たり6学級以上 |
| ・ 拠点校の学校規模 | … | 一つの専門学科で1学年当たり4学級以上 |

第2 学校・学科の充実

全ての高校において、今後求められる人財を育成するため、生徒一人一人の学習意欲の向上に十分配慮しながら、各校が創意工夫するとともに相互に連携し、生徒の進路志望や地域の期待等に応えることができるよう、それぞれの特色を生かした魅力ある教育活動の推進に向け、次のとおり取り組みます。

1 全ての高校に共通して求められる教育環境

ア 課題の発見と解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実践

【対象校】
全ての高校
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【取組内容】
<ul style="list-style-type: none">○ 生徒一人一人が各教科・科目や総合的な学習の時間等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、各授業等の充実を図ります。○ 「探究型学習によるたくましい高校生育成事業※」の成果等を踏まえ、知識を相互に関連付けてより深く理解すること、情報を精査して考えを形成すること、問題を見いだして解決策を考えること、思いや考えを基に創造することなど、深い学びの視点に基づく探究型学習に取り組みます。○ 多様な価値観を有する他者と協働して課題の解決に取り組む力を育むため、他の高校との連携・協力による教育活動や地域の教育資源を活用した教育活動を推進します。○ 探究型学習を更に推進するため、教員研修の充実を図ります。

※ 「探究型学習によるたくましい高校生育成事業」(H27～H28)は、高校生の学習意欲を高め学力向上を図るため、自ら学びたいテーマを設定し課題解決能力を身に付ける探究型学習を推進することとし、指導方法に関する研究協議を行うとともに、研究指定校等による研究の実施及び成果発表会の開催、科学技術や地域産業など特定分野に関心の高い生徒を集めた問題発見・解決能力育成合宿の開催等に取り組んだ事業です。

イ 社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度の涵養

【対象校】
全ての高校
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【取組内容】
○ 生徒一人一人が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、学校の教育活動全体を通じ、キャリア形成に取り組みます。

ウ ICTの活用による教育活動の充実

【対象校】
全ての高校
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【取組内容】
○ 高校教育の質の確保・向上のため、学習指導におけるICTの適切な活用、情報通信ネットワークを活用した生徒同士の探究活動、進路講演会等の実施について、引き続き研究します。

エ 発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への対応

【対象校】
全ての高校
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【取組内容】
○ 国の制度改正等の動向を踏まえ、発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への対応として、教員研修や人事交流等における特別支援学校との連携を強化するとともに、通級による指導等に段階的に取り組みます。

2 全日制課程

(1) 普通科等

ア 各校の教育環境の充実

【対象校】						
普通科等を設置する高校						
【実施年度】						
平成30年度～平成34年度						
【取組内容】						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各校の情報共有等により、大学等への進学や就職等、生徒の幅広い進路志望に対応するとともに、特色ある教育活動の充実を図ります。 ○ 各地域の実情に応じた教育活動や各校の特色を生かしたグローバル人材・科学技術人材の育成に向けた取組等を推進します。 ○ 生徒数が急激に減少する中であっても、各校の生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担い、一定の規模を有する重点校を次のとおり配置します。 						
地区	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八
重点校	青森高校	五所川原高校	弘前高校	三本木高校	田名部高校	八戸高校
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図るため、各校の生徒一人一人の学習意欲の向上等に配慮しながら、重点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等の連携により、生徒の進路志望の実現に向けた確かな学力の育成に積極的に取り組むことができる体制を整備します。 ・ 生徒の興味・関心や進路志望等の多様化に対応し、地域が求める人財を育成するため、地区の実情から5学級規模であっても重点校としての役割を果たす必要がある田名部高校に単位制を導入するとともに、その他の重点校に併設型中高一貫教育を第2期以降の実施計画において導入すること等について検討します。 						

イ 学科改編等

(ア) 英語科

【対象校】
三沢高校、田名部高校
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【改編内容】
○ 中学生のニーズ等を踏まえながら、社会のグローバル化等に対応し国際感覚を身に付けた人財を育成するとともに、高校卒業後の幅広い進路選択に対応するため、英語科を普通科に改編します。 ○ 普通科への改編後は、学校設定科目の開設等により、これまでの英語科における異文化・国際理解に関する学習を学校全体で発展的に引き継ぐこととします。

(イ) その他の学科（理数科、外国語科、スポーツ科学科、表現科）

【対象校】
五所川原高校：理数科 青森南高校：外国語科 青森北高校、弘前実業高校、八戸西高校（三八地区統合校（P26参照））：スポーツ科学科 八戸東高校：表現科
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【取組内容】
○ 理数科、外国語科、スポーツ科学科、表現科については、引き続き、専門学科としての役割、中学生のニーズ等を十分に検証し、その結果に応じて見直しを図ります。

(2) 職業教育を主とする専門学科

ア 各校の教育環境の充実

【対象校】			
職業教育を主とする専門学科を設置する高校			
【実施年度】			
平成30年度～平成34年度			
【取組内容】			
<p>○ 職業人として求められる基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力を育み、高校卒業後も学び続ける態度を身に付けることができる教育環境を整備するとともに、各校が課題研究等において連携し、特色ある教育活動の充実を図ります。</p> <p>○ 学校の特色を生かして、地域や社会が抱える様々な課題に積極果敢に挑戦し、本県はもとより、国内外の産業の発展に貢献できる人財の育成に向けた取組を推進します。</p> <p>○ 生徒数が急激に減少する中であっても、職業教育を主とする専門学科で学ぶ生徒の意欲的な取組を推進するため、農業科、工業科及び商業科の高校において、各地区の産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえ、各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点としての役割を担い、一定の規模を有する拠点校を次のとおり配置します。</p>			
学科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林高校 三本木農業高校 (上北地区統合校(P23参照))	青森工業高校 弘前工業高校 八戸工業高校	青森商業高校
<p>・ 県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図るため、各校の生徒一人一人の学習意欲の向上等に配慮しながら、拠点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等の連携とともに、大学との接続を視野に入れた取組や地域、企業等との連携・協力により、高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人の育成に積極的に取り組むことができる体制を整備します。</p>			

イ 学科改編等

(ア) 農業科

【対象校】																																															
農業科を設置する高校																																															
【実施年度】																																															
平成30年度～平成34年度																																															
【改編内容】																																															
<p>○ 環境保全型農業の実施や農業の6次産業化等、これからの農業経営に必要な力を身に付け、農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するため、次のとおり学科を改編します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 弘前実業高校の農業経営科における学習内容を柏木農業高校に集約することにより、中南地区における農業教育の一層の充実を図ります。 ・ 三本木農業高校（上北地区統合校（P23参照））においては、農産物の生産に加え、生産を支える環境、加工、流通等について幅広く学習できる学科を設置することとし、農業経済科を食品科学科に改編し、食品の製造・成分分析・品質管理や流通等に関する学習の充実を図ります。 また、農業機械科と環境土木科を統合して環境工学科に改編し、農業機械や農業土木等、農業生産を支える環境に関する学習の充実を図ります。 ・ 名久井農業高校の園芸科学科を生物生産科に統合し、野菜や果樹、草花等の幅広い農産物の生産に関する学習の充実を図ります。 																																															
【各校の学科構成】																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>H29の学科</th> <th>→</th> <th>学科改編等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">五所川原農林高校</td> <td>生物生産科</td> <td rowspan="4">→</td> <td rowspan="4">(変更なし)</td> </tr> <tr> <td>森林科学科</td> </tr> <tr> <td>環境土木科</td> </tr> <tr> <td>食品科学科</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">柏木農業高校</td> <td>生物生産科</td> <td rowspan="4">→</td> <td rowspan="4">(変更なし)</td> </tr> <tr> <td>環境工学科</td> </tr> <tr> <td>食品科学科</td> </tr> <tr> <td>生活科学科</td> </tr> <tr> <td>弘前実業高校</td> <td>農業経営科</td> <td>→</td> <td>募集停止 (柏木農業高校に集約)</td> </tr> </tbody> </table>	学校名	H29の学科	→	学科改編等	五所川原農林高校	生物生産科	→	(変更なし)	森林科学科	環境土木科	食品科学科	柏木農業高校	生物生産科	→	(変更なし)	環境工学科	食品科学科	生活科学科	弘前実業高校	農業経営科	→	募集停止 (柏木農業高校に集約)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>H29の学科</th> <th>→</th> <th>学科改編等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">三本木農業高校 (上北地区統合校 (P23参照))</td> <td>植物科学科</td> <td rowspan="5">→</td> <td>(変更なし)</td> </tr> <tr> <td>動物科学科</td> <td>(変更なし)</td> </tr> <tr> <td>農業機械科</td> <td>→ 環境工学科</td> </tr> <tr> <td>環境土木科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>農業経済科</td> <td>→ 食品科学科</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">名久井農業高校</td> <td>生物生産科</td> <td rowspan="3">→</td> <td>生物生産科</td> </tr> <tr> <td>園芸科学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>環境システム科</td> <td>(変更なし)</td> </tr> </tbody> </table>	学校名	H29の学科	→	学科改編等	三本木農業高校 (上北地区統合校 (P23参照))	植物科学科	→	(変更なし)	動物科学科	(変更なし)	農業機械科	→ 環境工学科	環境土木科		農業経済科	→ 食品科学科	名久井農業高校	生物生産科	→	生物生産科	園芸科学科		環境システム科	(変更なし)
学校名	H29の学科	→	学科改編等																																												
五所川原農林高校	生物生産科	→	(変更なし)																																												
	森林科学科																																														
	環境土木科																																														
	食品科学科																																														
柏木農業高校	生物生産科	→	(変更なし)																																												
	環境工学科																																														
	食品科学科																																														
	生活科学科																																														
弘前実業高校	農業経営科	→	募集停止 (柏木農業高校に集約)																																												
学校名	H29の学科	→	学科改編等																																												
三本木農業高校 (上北地区統合校 (P23参照))	植物科学科	→	(変更なし)																																												
	動物科学科		(変更なし)																																												
	農業機械科		→ 環境工学科																																												
	環境土木科																																														
	農業経済科		→ 食品科学科																																												
名久井農業高校	生物生産科	→	生物生産科																																												
	園芸科学科																																														
	環境システム科		(変更なし)																																												
【各学科の概要】																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科名</th> <th>主な学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生物生産科</td> <td>農業生産や経営に関する知識・技術のほか、植物バイオテクノロジー等について学習。</td> </tr> <tr> <td>植物科学科</td> <td>作物生産や植物バイオテクノロジー、農業経営等について学習。</td> </tr> <tr> <td>動物科学科</td> <td>牛・豚・鶏等の家畜生産や畜産経営、馬・犬・鳥類等の管理と活用について学習。</td> </tr> <tr> <td>食品科学科</td> <td>食品の製造・成分分析・品質管理や流通等に関する知識・技術について学習。</td> </tr> <tr> <td>森林科学科</td> <td>森林の育成のほか、環境保全や資源利用等について学習。</td> </tr> <tr> <td>環境工学科</td> <td>農業機械の整備や操作のほか、農業土木や造園等について学習。</td> </tr> <tr> <td>環境土木科</td> <td>農業土木のほか、環境保全や環境緑化等について学習。</td> </tr> <tr> <td>環境システム科</td> <td>都市近郊農業に対応し、施設園芸の生産・経営や生産設備等について学習。</td> </tr> <tr> <td>生活科学科</td> <td>食生活や被服、園芸福祉等のヒューマンサービスに関する知識・技術について学習。</td> </tr> </tbody> </table>	学科名	主な学習内容	生物生産科	農業生産や経営に関する知識・技術のほか、植物バイオテクノロジー等について学習。	植物科学科	作物生産や植物バイオテクノロジー、農業経営等について学習。	動物科学科	牛・豚・鶏等の家畜生産や畜産経営、馬・犬・鳥類等の管理と活用について学習。	食品科学科	食品の製造・成分分析・品質管理や流通等に関する知識・技術について学習。	森林科学科	森林の育成のほか、環境保全や資源利用等について学習。	環境工学科	農業機械の整備や操作のほか、農業土木や造園等について学習。	環境土木科	農業土木のほか、環境保全や環境緑化等について学習。	環境システム科	都市近郊農業に対応し、施設園芸の生産・経営や生産設備等について学習。	生活科学科	食生活や被服、園芸福祉等のヒューマンサービスに関する知識・技術について学習。	<p>〔各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。〕</p>																										
学科名	主な学習内容																																														
生物生産科	農業生産や経営に関する知識・技術のほか、植物バイオテクノロジー等について学習。																																														
植物科学科	作物生産や植物バイオテクノロジー、農業経営等について学習。																																														
動物科学科	牛・豚・鶏等の家畜生産や畜産経営、馬・犬・鳥類等の管理と活用について学習。																																														
食品科学科	食品の製造・成分分析・品質管理や流通等に関する知識・技術について学習。																																														
森林科学科	森林の育成のほか、環境保全や資源利用等について学習。																																														
環境工学科	農業機械の整備や操作のほか、農業土木や造園等について学習。																																														
環境土木科	農業土木のほか、環境保全や環境緑化等について学習。																																														
環境システム科	都市近郊農業に対応し、施設園芸の生産・経営や生産設備等について学習。																																														
生活科学科	食生活や被服、園芸福祉等のヒューマンサービスに関する知識・技術について学習。																																														

(イ) 工業科

【対象校】
工業科を設置する高校
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【改編内容】
<p>○ 職業の多様化に対応できる資質・能力及び高度な技術を身に付け、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するため、次のとおり学科を改編します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 青森工業高校の電子機械科を機械科に統合し、機械の設計、製作等に加え、コンピュータ制御技術等に関する学習の充実を図ります。・ 五所川原工業高校（西北地区統合校（P19参照））においては、情報技術科を電子機械科に統合し、コンピュータ制御による工作技術等に加え、情報処理技術等に関する学習の充実を図ります。・ 弘前工業高校のインテリア科を建築科に統合し、建築物の設計や建築工事等に加え、インテリア施工等に関する学習の充実を図ります。・ 十和田工業高校の電子機械科を電子科に統合し、回路設計、電子機器の製作技術等に加え、コンピュータ制御技術等に関する学習の充実を図ります。・ むつ工業高校の電子科を電気科に統合し、発電や送電、電気配線工事等に加え、回路設計、電子機器の製作技術等に関する学習の充実を図ります。・ 八戸工業高校の電子機械科を機械科に統合し、機械の設計、製作等に加え、コンピュータ制御技術等に関する学習の充実を図ります。 また、情報技術科を電子科に統合し、回路設計、電子機器の製作技術等に加え、情報処理技術等に関する学習の充実を図ります。 さらに、土木建築科は、土木コース、建築コースの志願・入学状況を踏まえ、土木科及び建築科に改編し、それぞれの学習の充実を図ります。

[各校の学科構成]

学校名	H29の学科	→	学科改編等	学校名	H29の学科	→	学科改編等	
青森工業高校	機械科	→	機械科	十和田工業高校	機械・エネルギー科		(変更なし)	
	電子機械科	→	機械科		電気科		(変更なし)	
	電気科		(変更なし)		電子科		電子科	
	電子科		(変更なし)		電子機械科	→	電子科	
	情報技術科		(変更なし)		建築科		(変更なし)	
	建築科		(変更なし)		むつ工業高校	機械科		(変更なし)
	都市環境科		(変更なし)			電気科	→	電気科
五所川原工業高校 (西北地区統合校 (P19参照))	機械科		(変更なし)	電子科			(変更なし)	
弘前工業高校	電気科		(変更なし)	設備・エネルギー科		(変更なし)		
	電子機械科	→	電子機械科	八戸工業高校	機械科	→	機械科	
	情報技術科		(変更なし)		電子機械科	→	機械科	
	機械科		(変更なし)		電気科		(変更なし)	
	電気科		(変更なし)		電子科	→	電子科	
	電子科		(変更なし)		情報技術科		(変更なし)	
	情報技術科		(変更なし)		土木建築科	→	土木科	
土木科		(変更なし)	(土木コース・建築コース)		→	建築科		
建築科	→	建築科	材料技術科		(変更なし)			
	インテリア科	→	建築科					

[各学科の概要]

学科名	主な学習内容
機械科	機械の設計、製図、各種切削加工、溶接、鋳造、組立技術のほか、自動工作機械等の加工技術等について学習。
電子機械科	機械と電子に関する知識・技術のほか、ロボットの操作やコンピュータ制御等について学習。
電気科	発電や送電、電気配線工事に関する知識・技術のほか、発電機や電動機の仕組み等について学習。
電子科	電子回路の設計や製作に関する知識・技術のほか、情報通信等の知識・技術について学習。
情報技術科	コンピュータの仕組みやプログラミング、データ通信のほか、マルチメディア、データベース等の情報処理技術について学習。
建築科	建築物の設計や製図、建築工事等の知識・技術について学習。
土木科	道路、鉄道、上下水道等の社会基盤整備に関する技術のほか、環境保全や測量等について学習。
都市環境科	土木に関する知識・技術のほか、都市環境やエネルギー等について学習。
機械・エネルギー科	機械に関する知識・技術のほか、電気自動車や燃料電池、環境やエネルギー等について学習。
設備・エネルギー科	各種設備機器、配管等に関する知識・技術のほか、環境やエネルギー等について学習。
材料技術科	金属・セラミックス・プラスチック素材の性質、作り方、加工方法の基礎やリサイクル活用等について学習。

各校に共通する主な学習内容を示したものであり、学校の実情により、異なる学習内容が含まれる場合があります。

(ウ) 商業科

【対象校】				
商業科を設置する高校				
【実施年度】				
平成30年度～平成34年度				
【改編内容】				
<p>○ 経済のサービス化・グローバル化、ICTの急速な進展に対応できる資質・能力等を身に付け、ビジネスを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成するため、次のとおり学科を改編します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒石商業高校の商業科及び情報処理科における学習内容を弘前実業高校に集約し、地域資源を活用しながら、中南地区における商業教育の一層の充実を図ります。 また、黒石商業高校の情報デザイン科における学習内容は、中南地区統合校（P21参照）に引き継ぎ、マーケティング活動等に活用できるデザインに関する学習の充実を図ります。 ・ 十和田西高校の観光科における学習内容は、上北地区統合校（P23参照）に引き継ぎ、地域資源を活用した観光に関する学習の充実を図ります。 				
[各校の学科構成]				
学校名	H29の学科	→	学科改編等	
青森商業高校	商業科	→	(変更なし)	
	情報処理科			
弘前実業高校	商業科	→	(変更なし)	
	情報処理科			
黒石商業高校	商業科	→	募集停止 (弘前実業高校に集約)	
	情報処理科			
	情報デザイン科			募集停止 (中南地区統合校(P21参照)に学習内容を引き継ぎ)
三沢商業高校	商業科	→	(変更なし)	
	情報処理科			
十和田西高校	観光科	→	募集停止 (上北地区統合校(P23参照)に学習内容を引き継ぎ)	
八戸商業高校	商業科	→	(変更なし)	
	国際経済科			募集停止※
	情報処理科			(変更なし)
※ 第3次実施計画【後期】に基づき、平成30年度に募集停止することとしています。				
[各学科の概要]				
学科名	主な学習内容			
商業科	簿記や情報処理をはじめ、マーケティングや商品開発等に関する知識・技術を習得し、ビジネスの場面で活用する方法について学習。			
情報処理科	プログラミング等に関する知識・技術を習得し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて学習。			

(エ) その他の学科（水産科、家庭科、看護科）

【対象校】
八戸水産高校：水産科 弘前実業高校、百石高校：家庭科 黒石高校（中南地区統合校（P21参照））：看護科
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【取組内容】
○ 水産科、家庭科、看護科については、引き続き、専攻科を含む各学科の充実を図るとともに、中学生のニーズ等を十分に検証し、その結果に応じて、各専門分野の基礎・基本を重視した学科への見直しを図ります。

(3) 総合学科

【対象校】			
総合学科を設置する高校			
【実施年度】			
平成30年度～平成34年度			
【取組内容】			
<p>○ 普通科等及び職業教育を主とする専門学科に並ぶ選択肢として、大学進学志望者や就職志望者に対応した教育に取り組むとともに、各校の課題研究における成果等を共有し、特色ある教育活動の充実を図ります。</p> <p>○ 多様な選択科目の充実を図るため、引き続き、地域の社会人や有識者を講師として積極的に活用します。</p> <p>○ 生徒数の減少や進路志望に対応し、特色ある教育活動の充実を図るため、引き続き、系列の在り方について各校と検討し、見直します。</p>			
[各校の系列]			
学校名	H29の系列	学校名	H29の系列
青森中央高校	人文科学	七戸高校	人文科学
	自然科学		自然科学
	生活科学		情報ビジネス
	情報ビジネス		食品科学
	美術		福祉健康
木造高校	人文科学	大湊高校	人文科学
	自然科学		自然科学
	流通ビジネス		健康福祉
	情報システム		情報ビジネス
木造高校 深浦校舎	人文社会 流通ビジネス		
[各系列の概要]			
系列名	系列の概要		
人文科学 人文社会	文化的、社会的、国際的な視野に立った物事の考え方について学習。		
自然科学	高度科学技術に対応できる科学的な視野に立った物事の考え方について学習。		
食品科学	農産物の生産・加工及び流通について学習。		
流通ビジネス	商業科目の学習に関連した資格取得を通して、ビジネス社会で活用できる実践的な知識・技能について学習。		
情報システム	現代社会における情報の意義や役割、高度情報社会で活用できる実践的な知識・技術について学習。		
情報ビジネス	現代社会における情報ビジネスの意義や役割、コンピュータによるビジネス活動等について学習。		
生活科学	情報化の進展・生活関連産業の多様化に対応できる家庭生活の在り方について学習。		
福祉健康	高齢者の介護・福祉、健康の増進や体力の向上等について学習。		
健康福祉	社会福祉の増進につながる健康や福祉に関する知識・技術について学習。		
美術	広い視野に立って美術文化の発展に寄与できる知識・技能について学習。		

3 定時制課程・通信制課程

(1) 定時制課程

ア 定時制課程の充実

【対象校】
北斗高校、五所川原高校、尾上総合高校、三沢高校、田名部高校、八戸中央高校
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【取組内容】
○ 様々な事情を抱える生徒に対応するため、スクールソーシャルワーカー等専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等、教育環境の充実を図るとともに、近年、入学者数が減少している夜間定時制課程について、引き続き、生徒のニーズ等を踏まえ、地区全体の視点から在り方を検討します。

イ 工業科の見直し

【対象校】
青森工業高校、弘前工業高校、八戸工業高校
【実施年度】
平成33年度
【取組内容】
○ 入学者数が大幅に減少し、教育環境の維持が困難となっている工業技術科を募集停止します。 なお、工業技術科の募集停止後であっても、引き続き、他の定時制課程において、職業教育に関する専門科目の充実を図るとともに、高校教育を受ける機会の確保に努めます。

(2) 通信制課程

ア 通信制課程の充実

【対象校】
北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【取組内容】
○ 電子メール等を活用した各科目のレポート提出等、ICTを活用した教育方法の導入に向けて検討し、教育環境の充実を図ります。

イ 高校入学後の進路変更への対応

【対象校】
北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校
【実施年度】
平成30年度～平成34年度
【取組内容】
○ 北斗高校において、後期入学や年度中途からの転入学・編入学等、高校入学後の進路変更に対応します。 北斗高校における実施状況を検証した上で、生徒のニーズ等を踏まえ、他校においても段階的に取り組めます。

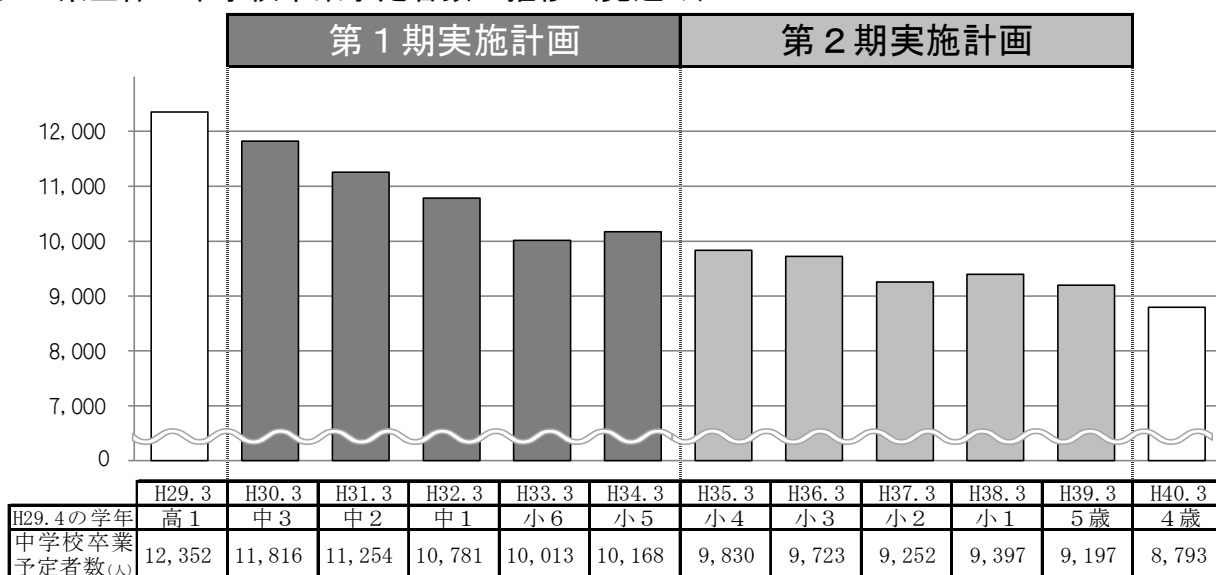
第3 学校規模・配置

生徒数が急激に減少する中であっても、生徒の多様な進路志望等に対応できる学科の選択肢を確保するとともに、生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育むため、生徒の通学環境等に配慮しながら、次のとおり、学校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置に取り組みます。

1 全日制課程

(1) 県全体の中学校卒業予定者数及び募集学級数

ア 県全体の中学校卒業予定者数の推移（見込み）



イ 地区ごとの中学校卒業予定者数の推移（見込み）

（単位：人）

	第3次	第1期実施計画					第2期実施計画				
	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
東青地区	2,920	2,824	2,643	2,619	2,378	2,458	2,463	2,326	2,221	2,302	2,202
西北地区	1,363	1,292	1,082	1,186	1,042	996	951	974	891	901	866
中南地区	2,552	2,354	2,338	2,182	2,053	2,117	1,966	1,940	1,959	1,793	1,843
上北地区	1,958	1,884	1,803	1,703	1,611	1,567	1,619	1,594	1,471	1,564	1,472
下北地区	689	693	658	564	573	578	518	569	474	542	489
三八地区	2,870	2,769	2,730	2,527	2,356	2,452	2,313	2,320	2,236	2,295	2,325
県計	12,352	11,816	11,254	10,781	10,013	10,168	9,830	9,723	9,252	9,397	9,197
(前年比較)	△ 100	△ 536	△ 562	△ 473	△ 768	155	△ 338	△ 107	△ 471	145	△ 200
(5年前比較)	△ 1,465					△ 2,184					△ 971

ウ 募集学級数（見込み）

（単位：学級）

	第3次	第1期実施計画		第2期実施計画	
	H29	H34の募集学級数※	5年前との比較	H39の募集学級数※	5年前との比較
東青地区	54	46～47	△7～△8	41～42	△5～△6
西北地区	27	19～21	△6～△8	17～19	△2～△4
中南地区	44	39	△5	35	△4
上北地区	43	33～34	△9～△10	31～32	△2～△3
下北地区	17	13～14	△3～△4	12～13	△1～△2
三八地区	45	39～40	△5～△6	37～38	△2～△3
県計	230	189～195	△35～△41	173～179	△16～△22

※ 「募集学級数」は、地域校の配置に関して、基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示しています。16

(2) 地区ごとの学校規模・配置計画

① 東青地区

ア 中学校卒業予定者数・募集学級数の推移（見込み）

	第3次		第1期					第2期	H40~H44
	前期 (H21~H25)	後期 (H26~H29)	第1期 (H30~H34)					(H35~H39)	
	H25	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H39	H44
中学校卒業 予定者数(人)	2,958	2,920	2,824	2,643	2,619	2,378	2,458	2,202	2,014
前年比較	—	—	△96	△181	△24	△241	80	—	—
期間内増減	△304	△38	△462					△256	△188
募集学級数(学級)※	54	54	46~47					41~42	
期間内増減	△8	±0	△7~△8					△5~△6	

※ 「募集学級数」は、地域校の配置に関して、基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示しています。

イ 各校の学校規模

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次	第1期		備考
		H29	H34	期間内増減	
青森高校	普通	7	6	△1	
青森西高校	普通	6	6		
青森東高校	普通	7	6	△1	
平内校舎	普通	1	0	△1	H31募集停止 H32年度末閉校
青森北高校	普通	5	4	△1	
	スポーツ科学	1	1		
今別校舎	普通	1	※ 1	※	地域校
青森南高校	普通	5	4	△1	
	外国語	1	1		
青森中央高校	総合	5	5		
浪岡高校	普通	2	2		
青森工業高校	工業	7	6	△1	
青森商業高校	商業	6	5	△1	
計		54	※ 47	※ △7	

※ 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応することとなります。

ウ 第2期実施計画の見通し

中学校卒業予定者数の減少等に対応するため、通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえ、更なる学校規模・配置の見直しが必要になると見込まれます。

② 西北地区

ア 中学校卒業予定者数・募集学級数の推移（見込み）

	第3次		第1期 (H30~H34)					第2期 (H35~H39)	H40~H44
	前期 (H21~H25)	後期 (H26~H29)	H30	H31	H32	H33	H34	H39	H44
	H25	H29							
中学校卒業 予定者数(人)	1,509	1,363	1,292	1,082	1,186	1,042	996	866	809
前年比較	—	—	△71	△210	104	△144	△46	—	—
期間内増減	△112	△146	△367					△130	△57
募集学級数(学級)※	32	27	19~21					17~19	
期間内増減	△2	△5	△6~△8					△2~△4	

※ 「募集学級数」は、地域校の配置に関して、基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示しています。

イ 各校の学校規模

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次	第1期		備考
		H29	H34	期間内増減	
五所川原高校	普通	4	4		
	理数	1	1		
木造高校	総合	4	4		
深浦校舎	総合	1	※ 1	※	地域校
鱒ヶ沢高校	普通	2	1	△1	
中里高校	普通	1	※ 1	※	地域校
西北地区統合校	普通		2	+2	H33募集開始
	工業		3	+3	
金木高校	普通	2	0	△2	H33募集停止 H34年度末閉校
板柳高校	普通	2	0	△2	H33募集停止 H34年度末閉校
鶴田高校	普通	2	0	△2	H33募集停止 H34年度末閉校
五所川原工業高校	工業	4	0	△4	H33募集停止 H34年度末閉校
五所川原農林高校	農業	4	4		
計		27	※ 21	※ △6	

※ 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応することとなります。

ウ 第2期実施計画の見通し

中学校卒業予定者数の減少等に対応するため、通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえ、更なる学校規模・配置の見直しが必要になると見込まれます。

特に、1学級規模で配置することとした鱒ヶ沢高校については、再編を含め、引き続き検討します。

(参考) 西北地区統合校

【対象校】
金木高校（普通科 2 学級） 板柳高校（普通科 2 学級） 鶴田高校（普通科 2 学級） 五所川原工業高校（工業科 4 学級：機械・電子機械・電気・情報技術）
【実施年度】
平成 33 年度
【使用校舎】
五所川原工業高校の校舎
【学科構成】
普通科 2 学級 工業科 3 学級（機械・電子機械・電気）
【統合校の方向性】
開設準備委員会において、統合校の名称のほか、次のような「統合校における教育活動」、「目指す人財像」の方向性に基づく具体的な取組等について検討し、統合校の教育活動の充実を図ります。
<統合校における教育活動>
○ 普通科においては、金木高校、板柳高校、鶴田高校における特色ある教育活動を引き継ぎ、国際理解、地域ビジネス、生活産業等に関する教育に取り組みます。
○ 工業科においては、引き続き、地域の産業構造に合わせた学習に取り組むとともに、高度な技術を身に付けた工業技術者を育成するため、最先端技術の学習における職業能力開発大学校との連携等を推進します。
○ 普通科と工業科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実や工業科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応します。
<目指す人財像>
◆ 社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人財
◆ 多様な価値観や立場を理解し、多くの人々と協働しながら地域を支える人財
◆ ビジネスの基礎を身に付け、地域経済の発展に貢献する人財
◆ 生活の質の向上に関する知識を身に付け、地域の発展に貢献する人財
◆ 高度な工業技術を身に付け、付加価値の高い創造的な製品を開発するなど地域産業を支える人財

③ 中南地区

ア 中学校卒業予定者数・募集学級数の推移（見込み）

	第3次		第1期					第2期	H40~H44
	前期 (H21~H25)	後期 (H26~H29)	第1期 (H30~H34)					(H35~H39)	
	H25	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H39	H44
中学校卒業 予定者数(人)	2,850	2,552	2,354	2,338	2,182	2,053	2,117	1,843	1,699
前年比較	—	—	△198	△16	△156	△129	64	—	—
期間内増減	△272	△298	△435					△274	△144
募集学級数(学級)	50	44	39					35	
期間内増減	△5	△6	△5					△4	

イ 各校の学校規模

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次	第1期		備考
		H29	H34	期間内増減	
弘前高校	普通	6	6		
弘前中央高校	普通	6	6		
弘前南高校	普通	6	6		
中南地区統合校	普通		3	+3	H32募集開始
	情報デザイン		1	+1	
	看護		1	+1	
黒石高校	普通	3	0	△3	H32募集停止 H33年度末閉校
	看護	1	0	△1	
黒石商業高校	商業	4	0	△4	H32募集停止 H33年度末閉校
柏木農業高校	農業	4	4		
弘前工業高校	工業	7	6	△1	
弘前実業高校	農業	1	0	△1	募集停止
	商業	3	3		
	家庭	2	2		
	スポーツ科学	1	1		
計		44	39	△5	

ウ 第2期実施計画の見通し

中学校卒業予定者数の減少等に対応するため、通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえ、更なる学校規模・配置の見直しが必要になると見込まれます。

(参考) 中南地区統合校

【対象校】
黒石高校（普通科 3 学級、看護科 1 学級(専攻科 1 学級)） 黒石商業高校（商業科 4 学級：商業・情報処理・情報デザイン）
【実施年度】
平成 3 2 年度
【使用校舎】
黒石高校の校舎
【学科構成】
普通科 3 学級 情報デザイン科 1 学級 [学習内容の引き継ぎ方法(学科、コース等)については、開設準備委員会で検討] 看護科 1 学級（専攻科 1 学級）
【統合校の方向性】
<p>開設準備委員会において、統合校の名称のほか、次のような「統合校における教育活動」、「目指す人財像」の方向性に基づく具体的な取組等について検討し、統合校の教育活動の充実を図ります。</p> <p><統合校における教育活動></p> <ul style="list-style-type: none">○ 普通科においては、大学進学や就職に向けた教育課程を編成し幅広い進路志望等に対応した教育に取り組みます。○ 情報デザイン科、看護科及び専攻科においては、これまでの学習内容を引き継ぐとともに、地域との連携による教育活動の充実を図ります。○ 普通科、情報デザイン科、看護科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実、情報デザイン科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上や看護科の生徒の専攻科修了後の大学編入等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応します。 <p><目指す人財像></p> <ul style="list-style-type: none">◆ 社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人財◆ マーケティング活動等に活用できるデザインに関する専門的な知識・技能を身に付け、地域経済の発展に貢献する人財◆ 看護に関する専門的な知識・技能を身に付け、地域医療を支える人財

④ 上北地区

ア 中学校卒業予定者数・募集学級数の推移（見込み）

	第3次		第1期					第2期	H40~H44
	前期 (H21~H25)	後期 (H26~H29)	(H30~H34)					(H35~H39)	
	H25	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H39	H44
中学校卒業 予定者数(人)	2,119	1,958	1,884	1,803	1,703	1,611	1,567	1,472	1,402
前年比較	—	—	△74	△81	△100	△92	△44	—	—
期間内増減	△168	△161	△391					△95	△70
募集学級数(学級)※	46	43	33~34					31~32	
期間内増減	△5	△3	△9~△10					△2~△3	

※ 「募集学級数」は、地域校の配置に関して、基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示しています。

イ 各校の学校規模

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次	第1期		備考
		H29	H34	期間内増減	
三本木高校	普通	6	6		
三沢高校	普通	5	5		英語科を普通科に改編の上、1学級減
	英語	1	0	△1	
野辺地高校	普通	3	2	△1	
七戸高校	総合	4	3	△1	
百石高校	普通	3	2	△1	
	家庭	1	1		
六ヶ所高校	普通	2	※ 2	※	地域校
上北地区統合校	普通		2	+2	H33募集開始
	農業		4	+4	
十和田西高校	普通	1	0	△1	H33募集停止 H34年度末閉校
	商業	1	0	△1	
六戸高校	普通	2	0	△2	H33募集停止 H34年度末閉校
三本木農業高校	農業	5	0	△5	H33募集停止 H34年度末閉校
十和田工業高校	工業	5	4	△1	
三沢商業高校	商業	4	3	△1	
計		43	※ 34	※ △9	

※ 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応することとなります。

ウ 第2期実施計画の見通し

中学校卒業予定者数の減少等に対応するため、通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえ、更なる学校規模・配置の見直しが必要になると見込まれます。

(参考) 上北地区統合校

【対象校】
十和田西高校（普通科 1 学級、商業科 1 学級：観光） 六戸高校（普通科 2 学級） 三本木農業高校（農業科 5 学級：植物科学・動物科学・農業機械・ 環境土木・農業経済）
【実施年度】
平成 33 年度
【使用校舎】
三本木農業高校の校舎
【学科構成】
普通科 2 学級 農業科 4 学級（植物科学・動物科学・環境工学・食品科学）
【統合校の方向性】
<p>開設準備委員会において、統合校の名称のほか、次のような「統合校における教育活動」、「目指す人財像」の方向性に基づく具体的な取組等について検討し、統合校の教育活動の充実を図ります。</p> <p><統合校における教育活動></p> <ul style="list-style-type: none">○ 普通科においては、十和田西高校及び六戸高校における特色ある教育活動を引き継ぎ、地域資源を活用した観光やボランティア等に関する学習に取り組みます。○ 農業科においては、引き続き、農業に関する幅広い学習に取り組むとともに、これからの農業経営に必要な力を身に付けるため、営農大学校の教員や学生との交流等を推進します。○ 普通科と農業科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実や農業科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応します。 <p><目指す人財像></p> <ul style="list-style-type: none">◆ 社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人財◆ 地域資源の活用に創造的に取り組み、地域の発展に貢献する人財◆ 農産物の生産とその生産を支える環境、加工、流通、販売等について学び、地域産業を支える人財

⑤ 下北地区

ア 中学校卒業予定者数・募集学級数の推移（見込み）

	第3次		第1期 (H30~H34)					第2期 (H35~H39)	H40~H44
	前期 (H21~H25)	後期 (H26~H29)	H30	H31	H32	H33	H34	H39	H44
	H25	H29							
中学校卒業 予定者数(人)	782	689	693	658	564	573	578	489	480
前年比較	—	—	4	△35	△94	9	5	—	—
期間内増減	△114	△93	△111					△89	△9
募集学級数(学級)※	18	17	13~14					12~13	
期間内増減	△2	△1	△3~△4					△1~△2	

※ 「募集学級数」は、地域校の配置に関して、基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示しています。

イ 各校の学校規模

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次	第1期		備考	
		H29	H34	期間内増減		
田名部高校	普通	4	5	+1	英語科を普通科に改編	
	英語	1	0	△1		
大湊高校	総合	5	4	△1		
川内校舎	普通	1	0	△1	H31募集停止 H32年度末閉校	
大間高校	普通	2	※	2	※	地域校
むつ工業高校	工業	4	3	△1		
計		17	※	14	※	△3

※ 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応することとなります。

ウ 第2期実施計画の見通し

中学校卒業予定者数の減少等に対応するため、通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえ、更なる学校規模・配置の見直しが必要になると見込まれます。

⑥ 三八地区

ア 中学校卒業予定者数・募集学級数の推移（見込み）

	第3次		第1期					第2期	H40~H44
	前期 (H21~H25)	後期 (H26~H29)	第1期 (H30~H34)					(H35~H39)	
	H25	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H39	H44
中学校卒業 予定者数(人)	3,096	2,870	2,769	2,730	2,527	2,356	2,452	2,325	2,012
前年比較	—	—	△101	△39	△203	△171	96	—	—
期間内増減	△423	△226	△418					△127	△313
募集学級数(学級)※	48	45	39~40					37~38	
期間内増減	△10	△3	△5~△6					△2~△3	

※ 「募集学級数」は、地域校の配置に関して、基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示しています。

イ 各校の学校規模

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次	第1期		備考	
		H29	H34	期間内増減		
八戸高校	普通	6	6			
八戸東高校	普通	5	5			
	表現	1	1			
八戸北高校	普通	6	6			
三八地区統合校	普通		5	+5	H32募集開始	
	スポーツ科学		1	+1		
八戸西高校	普通	4	0	△4	H32募集停止 H33年度末閉校	
	スポーツ科学	1	0	△1		
五戸高校	普通	2	0	△2	H32募集停止 H33年度末閉校	
三戸高校	普通	2	1	△1		
田子高校	普通	1	※	1	※	地域校
名久井農業高校	農業	3	2	△1		
八戸水産高校	水産	3	3			
八戸工業高校	工業	7	6	△1		
八戸商業高校	商業	4	3	△1		
計		45	※	40	※	△5

※ 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応することとなります。

ウ 第2期実施計画の見通し

中学校卒業予定者数の減少等に対応するため、通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえ、更なる学校規模・配置の見直しが必要になると見込まれます。

特に、1学級規模で配置することとした三戸高校については、近隣の高校の配置状況を踏まえ、再編を含め、引き続き検討します。

(参考) 三八地区統合校

【対象校】
八戸西高校（普通科4学級、スポーツ科学科1学級） 五戸高校（普通科2学級）
【実施年度】
平成32年度
【使用校舎】
八戸西高校の校舎
【学科構成】
普通科5学級 スポーツ科学科1学級
【統合校の方向性】
<p>開設準備委員会において、統合校の名称のほか、次のような「統合校における教育活動」、「目指す人財像」の方向性に基づく具体的な取組等について検討し、統合校の教育活動の充実を図ります。</p> <p><統合校における教育活動></p> <ul style="list-style-type: none">○ 普通科においては、八戸西高校及び五戸高校における特色ある教育活動を引き継ぐとともに、生徒の多様な適性、興味・関心、進路志望等に対応した教育に取り組みます。○ スポーツ科学科においては、これまでの学習内容を引き継ぐとともに、幅広い進路志望等に対応した教育に取り組みます。○ 普通科とスポーツ科学科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実やスポーツ科学科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応します。 <p><目指す人財像></p> <ul style="list-style-type: none">◆ 社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人財◆ 情報社会における課題の発見・解決に取り組み、情報産業と地域の発展に貢献する人財◆ 体育に関する専門的な知識・技能を身に付け、地域におけるスポーツ振興や健康づくりを担い、活力ある地域づくりに貢献する人財

(3) 計画的な統合に当たっての留意事項

- ① 統合の対象となる学校に入学した生徒は、入学した学校で学び、卒業することを基本とします。
- ② 統合の対象となる学校の教育活動を維持できるよう、教育課程の実施等に要する適正な教職員配置とともに学校行事をはじめとする特別活動や部活動等の生徒の活動の場の確保に努めます。
- ③ 統合の対象となる学校の関係者等で構成する開設準備委員会をあらかじめ設置し、統合校の教育活動の充実に向け、統合校の新たな名称、教育活動、目指す人財像等について検討するとともに、統合の対象となる学校間における連携や各校のあゆみを伝えるための資料の展示等について協議します。
- ④ 統合の対象となる学校の卒業生に係る卒業証明書等の発行や指導要録、沿革に係る資料の保存・管理等は、統合校が引き継ぎます。

(4) 地域校への対応

【対象校】
青森北高校今別校舎、木造高校深浦校舎、中里高校、六ヶ所高校、大間高校、田子高校
【実施年度】
平成30年度～
【取組内容】
<ul style="list-style-type: none">○ 小規模校における教育活動の充実に図るため、各校との連携による教育活動に必要な施策を実施します。○ 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等※により対応します。1学級規模の地域校が基準に該当した場合、高校への通学が困難となる地域の生徒の通学への対応を含め、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けた協議を行います。

※ 基本方針に定める基準等

- ・ 本計画において地域校とする2学級規模の高校については、入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として1学級規模とします。
- ・ 1学級規模の地域校については、募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合には、募集停止等に向けて、当該高校の所在する市町村等と協議します。

2 定時制課程・通信制課程

(1) 定時制課程

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次	第1期		備考
		H29	H34	期間内増減	
北斗高校	普通・午前部	1	1		
	普通・午後部	1	1		
	普通・夜間部	1	1		
青森工業高校	工業	1	0	△1	H33募集停止 H35年度末閉課程
五所川原高校	普通	1	1		
尾上総合高校	総合・Ⅰ部	1	1		
	総合・Ⅱ部	1	1		
	総合・Ⅲ部	1	1		
弘前工業高校	工業	1	0	△1	H33募集停止 H35年度末閉課程
三沢高校	普通	1	1		
田名部高校	普通	1	1		
八戸中央高校	普通・午前部	1	1		
	普通・午後部	1	1		
	普通・夜間部	1	1		
八戸工業高校	工業	1	0	△1	H33募集停止 H35年度末閉課程
計		15	12	△3	

(2) 通信制課程

(単位：人)

学校・学科	年度・募集人員等	第3次	第1期		備考
		H29	H34	期間内増減	
北斗高校	普通	200	200		
尾上総合高校	普通	150	150		
八戸中央高校	普通	150	150		
計		500	500	±0	

3 統合・募集停止等の実施年度

(1) 全日制課程

地区・学校名		年度		H30	H31	H32	H33	H34	備考
東青	青森東高校 平内校舎				募集停止	年度末閉校			
西北	西北地区統合校				開設準備委員会設置・ 開設準備	開設準備	開校・募集開始		
	【統合対象校】 ・金木高校 ・板柳高校 ・鶴田高校 ・五所川原工業高校						募集停止	年度末閉校	
中南	中南地区統合校			開設準備委員会設置・ 開設準備	開設準備	開校・募集開始			
	【統合対象校】 ・黒石高校 ・黒石商業高校						募集停止	年度末閉校	
上北	上北地区統合校			開設準備委員会設置・ 開設準備	開設準備	開校・募集開始			
	【統合対象校】 ・十和田西高校 ・六戸高校 ・三本木農業高校						募集停止	年度末閉校	
下北	大湊高校 川内校舎				募集停止	年度末閉校			
三八	三八地区統合校			開設準備委員会設置・ 開設準備	開設準備	開校・募集開始			
	【統合対象校】 ・八戸西高校 ・五戸高校						募集停止	年度末閉校	

〔 地域校(青森北高校今別校舎、木造高校深浦校舎、中里高校、六ヶ所高校、大間高校、田子高校)の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応することとなります。〕

(2) 定時制課程

地区・学校名		年度		H30	H31	H32	H33	H34	備考
東青	青森工業高校						募集停止		H35年度末閉課程
中南	弘前工業高校						募集停止		H35年度末閉課程
三八	八戸工業高校						募集停止		H35年度末閉課程

第4 県民の理解と協力の下での県立高等学校教育改革の推進

1 推進計画の進捗管理

- 高校教育を巡る環境の変化や中学校卒業生数の見込み、生徒の志願・入学状況等を確認の上、第1期実施計画の取組状況について検証し、必要に応じて実施計画を見直します。
- これまで翌年度分を公表してきた募集人員について、中学生が見通しを持って進路選択できるよう、翌々年度分の見込みを含め公表することとします。

2 第2期実施計画の策定

- 第2期実施計画の策定に当たっては、地区意見交換会を開催するなど、地域の意見を聴取しながら検討し、平成33年度の決定を目指します。

青森県教育委員会では、広く県民の皆様から「青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画（案）」に対するご意見・ご感想をいただき、検討を重ねた上で計画を策定したいと考えております。

つきましては、下記の宛先まで、ご意見・ご感想をお寄せ下さるようお願いいたします。

◇ご意見・ご感想の宛先

〒030-8540 青森市新町2-3-1

青森県教育庁高等学校教育改革推進室

電話 017-734-9866

ファクス 017-734-8003

ホームページ

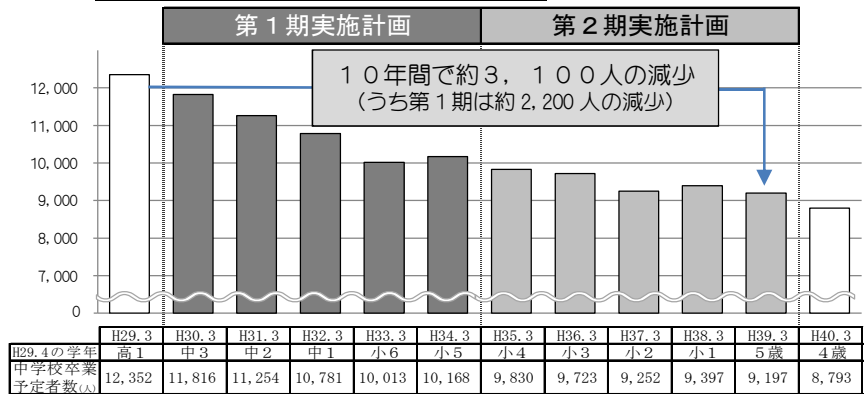
<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kenritukoutougakkoukyouikukaikaku.html>

メールアドレス E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp

背景

- 社会の急速な変化（グローバル化等の進展、少子高齢化の進行等）
- 高大接続改革等高校教育を巡る環境の変化
- 生徒の進路志望等の多様化
- 平成29年3月からの10年間で約3,100人の中学校卒業予定者数の減少

県全体の中学校卒業予定者数の推移



第1 第1期実施計画策定の経緯(P1~P2)

基本方針を踏まえるとともに、地区意見交換会における意見等を参考としながら、平成30年度から34年度までの具体的な内容（学校・学科の充実、学校規模・配置等）を示す第1期実施計画を策定します。

これまでの経緯等(P1~P2)

- 平成26年6月：青森県立高等学校将来構想検討会議へ諮問
- 平成28年1月：同会議の答申
 - 5月：基本方針（案）公表
 - 5月～6月：地区懇談会、パブリック・コメント実施
 - 8月：基本方針決定
- 平成28年9月～29年1月：地区意見交換会（県内6地区×3回）開催
- 平成29年4月：第1期実施計画（案）公表
 - 4月～6月：地区懇談会、パブリック・コメント実施
 - （7月：第1期実施計画決定予定）

計画策定の観点(P2)

充実した教育環境の整備

- 全ての高校において魅力ある教育活動を推進
- 各学科の特色ある教育活動の中核的役割を担う高校を配置し、県全体の高校教育の質の確保・向上
- 生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育むため、学校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置

各地域の実情への配慮

- 生徒の通学環境や地域における高校の役割等に配慮した学校配置

第2 学校・学科の充実(P3~P15)

全ての高校において、今後求められる人財を育成するため、生徒一人一人の学習意欲の向上に十分配慮しながら、各校が創意工夫するとともに相互に連携し、生徒の進路志望や地域の期待等に応えることができるよう、それぞれの特色を生かした魅力ある教育活動の推進に向け、次のとおり取り組みます。

全ての高校に共通して求められる教育環境(P3~P4)

ア 課題の発見と解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実践

- 主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、各授業等の充実を図ります。
- 深い学びの視点に基づく探究型学習に取り組みます。
- 他の高校との連携・協力による教育活動や地域の教育資源を活用した教育活動を推進します。
- 教員研修の充実を図ります。

イ 社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度の涵養

- 生徒一人一人が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、学校の教育活動全体を通じ、キャリア形成に取り組みます。

ウ ICTの活用による教育活動の充実

- 学習指導におけるICTの適切な活用、情報通信ネットワークを活用した生徒同士の探究活動、進路講演会等の実施について、引き続き研究します。

エ 発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への対応

- 国の制度改正等の動向を踏まえ、発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への対応として、教員研修や人事交流等における特別支援学校との連携を強化するとともに、通級による指導等に段階的に取り組みます。

(1) 普通科等

(各校の教育環境の充実)

- 各校の情報共有等により、**大学等への進学や就職等、生徒の幅広い進路志望に対応するとともに、特色ある教育活動の充実を図ります。**
- 各地域の実情に応じた教育活動や各校の特色を生かした**グローバル人材・科学技術人材の育成に向けた取組等を推進**します。
- 生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた**特色ある教育活動の中核的役割を担い、一定の規模を有する重点校を配置**します。

地区	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八
重点校	青森	五所川原	弘前	三本木	田名部	八戸

- ◆ 県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図るため、各校の生徒一人一人の学習意欲の向上等に配慮しながら、重点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等の連携により、生徒の進路志望の実現に向けた**確かな学力の育成に積極的に取り組むことができる体制を整備**します。
- ◆ 生徒の興味・関心や進路志望等の多様化に対応し、地域が求める人財を育成するため、地区の実情から5学級規模であっても重点校としての役割を果たす必要がある**田名部高校に単位制を導入**するとともに、その他の重点校に併設型中高一貫教育を第2期以降の実施計画において導入すること等について検討します。

(学科改編等)

<英語科>

- **英語科(三沢高校・田名部高校)を普通科に改編**します。

<その他の学科>

- 理数科、外国語科、スポーツ科学科、表現科については、引き続き、専門学科としての役割、中学生のニーズ等を十分に検証し、その結果に応じて見直しを図ります。

(2) 職業教育を主とする専門学科

(各校の教育環境の充実)

- 職業の多様化に対応できる資質・能力を育み、**高校卒業後も学び続ける態度**を身に付けることができる教育環境を整備するとともに、各校が課題研究等において連携し、特色ある教育活動の充実を図ります。
- 学校の特色を生かして、地域や社会が抱える様々な課題に積極果敢に挑戦し、本県はもとより、**国内外の産業の発展に貢献できる人財の育成に向けた取組を推進**します。
- 生徒の意欲的な取組を推進するため、農業科、工業科及び商業科の高校において、各地区の産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえ、各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、**各学科の学習の拠点としての役割を担い、一定の規模を有する拠点校を配置**します。

学科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林	青森工業	青森商業
	三本木農業 (上北地区統合校)	弘前工業 八戸工業	

- ◆ 県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図るため、各校の生徒一人一人の学習意欲の向上等に配慮しながら、拠点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等の連携とともに、大学との接続を視野に入れた取組や地域、企業等との連携・協力により、**高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人の育成に積極的に取り組むことができる体制を整備**します。

(学科改編等)

<農業科>

学校名	H29の学科		学科改編等	学校名	H29の学科		学科改編等
弘前実業	農業経営科	→	募集停止 ※1	名久井農業	生物生産科	→	生物生産科
三本木農業 (上北地区統合校)	農業機械科	→	環境工学科		園芸科学科		
	環境土木科	→			食品科学科		

※1 柏木農業高校に集約

<工業科>

学校名	H29の学科		学科改編等	学校名	H29の学科		学科改編等
青森工業	機械科	→	機械科	むつ工業	電気科	→	電気科
	電子機械科				電子科		
五所川原工業 (西北地区統合校)	電子機械科	→	電子機械科	八戸工業	機械科	→	機械科
	情報技術科				電子機械科		
弘前工業	建築科	→	建築科		電子科	→	電子科
	インテリア科				情報技術科		
十和田工業	電子科	→	電子科	土木建築科 (土木J-1・建築J-1)	→	土木科	
	電子機械科			→	建築科		

<商業科>

学校名	H29の学科		学科改編等	学校名	H29の学科		学科改編等
黒石商業	商業科	→	募集停止 ※2	十和田西	観光科	→	募集停止 ※4
	情報処理科			八戸商業	国際経済科		
	情報デザイン科			→	募集停止 ※3		

※2 弘前実業高校に集約

※3 中南地区統合校に学習内容を引き継ぎ

※4 上北地区統合校に学習内容を引き継ぎ

※5 第3次実施計画【後期】に基づき、平成30年度に募集停止

<その他の学科>

- 水産科、家庭科、看護科については、引き続き、専攻科を含む各学科の充実を図るとともに、中学生のニーズ等を十分に検証し、その結果に応じて、各専門分野の基礎・基本を重視した学科への見直しを図ります。

(3) 総合学科

- 各校の課題研究における成果等を共有し、特色ある教育活動の充実を図ります。
- 多様な選択科目の充実を図るため、引き続き、地域の社会人や有識者を講師として積極的に活用します。
- 特色ある教育活動の充実を図るため、引き続き、系列の在り方について各校と検討し、見直します。

定時制課程・通信制課程(P14~P15)

(1) 定時制課程

- スクールソーシャルワーカー等専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等、教育環境の充実を図ります。
- 入学者数が大幅に減少し、教育環境の維持が困難となっている工業技術科を募集停止します。
なお、工業技術科の募集停止後であっても、引き続き、他の定時制課程において、職業教育に関する専門科目の充実を図るとともに、高校教育を受ける機会の確保に努めます。

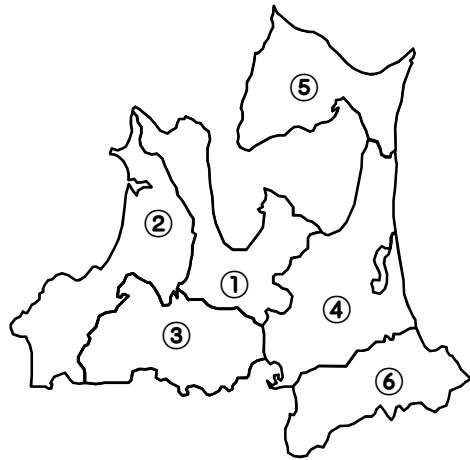
(2) 通信制課程

- ICTを活用した教育方法の導入に向けて検討し、教育環境の充実を図ります。
- 北斗高校において、後期入学や年度中途からの転入学・編入学等、高校入学後の進路変更に対応します。
北斗高校における実施状況を検証した上で、生徒のニーズ等を踏まえ、他校においても段階的に取り組みます。

第3 学校規模・配置(P16~P29)

生徒数が急激に減少する中であっても、生徒の多様な進路志望等に対応できる学科の選択肢を確保するとともに、校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置に取り組みます。

全日制課程(P16~P27)



①東青地区<中学校卒業予定者数：H29 2,920人→H34 2,458人(△462)>

<期間内学級数の増減：△7~△8 学級>

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次		第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	期間内増減	備考	
青森	普通	7	6	△1	(普通)	
青森西	普通	6	6		(普通)	
青森東	普通	7	6	△1	(普通)	
平内校舎	普通	1	0	△1	H31募集停止	
青森北	普通	5	4	△1	(普通、ｽｰｯ科学)	
	ｽｰｯ科学	1	1			
今別校舎	普通	1	※ 1	※	地域校(普通)	
青森南	普通	5	4	△1	(普通、外国語)	
	外国語	1	1			
青森中央	総合	5	5		(総合)	
浪岡	普通	2	2		(普通)	
青森工業	工業	7	6	△1	(機械、電気、電子、情報技術、建築、都市環境)	
青森商業	商業	6	5	△1	(商業、情報処理)	
計		54	※ 47	※ △7		

②西北地区<中学校卒業予定者数：H29 1,363人→H34 996人(△367)><期間内学級数の増減：△6~△8 学級>

金木・板柳・鶴田・五所川原工業 → 西北地区統合校

開校年度：平成33年度
使用校舎：五所川原工業高校の校舎
学科構成：普通科2学級
工業科3学級(機械・電子機械・電気)

<統合校における教育活動の方向性>

- 普通科：国際理解、地域ビジネス、生活産業等に関する教育に取り組む。
- 工業科：地域の産業構造に合わせた学習、最先端技術の学習における職業能力開発大学校との連携等を推進する。
- 普通科と工業科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実や工業科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応する。

学校・学科	年度・学級数等	第3次		第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	期間内増減	備考	
五所川原	普通	4	4		(普通、理数)	
	理数	1	1			
木造	総合	4	4		(総合)	
深浦校舎	総合	1	※ 1	※	地域校(総合)	
藤ヶ沢	普通	2	1	△1	(普通)	
中里	普通	1	※ 1	※	地域校(普通)	
西北地区統合校	普通		2	+2	H33募集開始 (普通、機械、電子機械、電気)	
	工業		3	+3		
金木	普通	2	0	△2	H33募集停止	
板柳	普通	2	0	△2	H33募集停止	
鶴田	普通	2	0	△2	H33募集停止	
五所川原工業	工業	4	0	△4	H33募集停止	
五所川原農林	農業	4	4		(生物生産、森林科学、環境土木、食品科学)	
計		27	※ 21	※ △6		

③中南地区<中学校卒業予定者数：H29 2,552人→H34 2,117人(△435)><期間内学級数の増減：△5 学級>

黒石・黒石商業 → 中南地区統合校

開校年度：平成32年度
使用校舎：黒石高校の校舎
学科構成：普通科3学級
情報デザイン科1学級
[学習内容の引き継ぎ方法(学科、ｺｰｽ等)については、開設準備委員会で検討]
看護科1学級(専攻科1学級)

<統合校における教育活動の方向性>

- 普通科：大学進学や就職に向けた教育課程を編成し幅広い進路志望等に対応した教育に取り組む。
- 情報デザイン科、看護科及び専攻科：地域との連携による教育活動の充実を図る。
- 普通科、情報デザイン科、看護科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実、情報デザイン科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上や看護科の生徒の専攻科修了後の大学編入等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応する。

学校・学科	年度・学級数等	第3次		第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	期間内増減	備考	
弘前	普通	6	6		(普通)	
弘前中央	普通	6	6		(普通)	
弘前南	普通	6	6		(普通)	
中南地区統合校	普通		3	+3	H32募集開始 (普通、情報デザイン、看護)	
	情報デザイン		1	+1		
	看護		1	+1		
黒石	普通	3	0	△3	H32募集停止	
看護	1	0	△1			
黒石商業	商業	4	0	△4	H32募集停止	
柏木農業	農業	4	4		(生物生産、環境工学、食品科学、生活科学)	
弘前工業	工業	7	6	△1	(機械、電気、電子、情報技術、土木、建築)	
弘前実業	農業	1	0	△1	募集停止	
	商業	3	3			
	家庭	2	2			
	ｽｰｯ科学	1	1			
計		44	39	△5		

生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育むため、生徒の通学環境等に配慮しながら、次のとおり、学

④上北地区<中学校卒業予定者数：H29 1,958人→H34 1,567人(△391)><期間内学級数の増減：△9～△10学級>

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次		第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	期間内増減	期間内増減	
三本木	普通	6	6			(普通)
三沢	普通	5	5			英語科を普通科に改編の上、1学級減 (普通)
	英語	1	0	△1		
野辺地	普通	3	2	△1		(普通)
七戸	総合	4	3	△1		(総合)
百石	普通	3	2	△1		(普通、食物調理)
	家庭	1	1			
六ヶ所	普通	2	※	2	※	地域校(普通)
上北地区統合校	普通			2	+2	H33募集開始
	農業			4	+4	(普通、植物科学、動物科学、環境工学、食品科学)
十和田西	普通	1	0	△1		H33募集停止
	商業	1	0	△1		
六戸	普通	2	0	△2		H33募集停止
三本木農業	農業	5	0	△5		H33募集停止
十和田工業	工業	5	4	△1		(機械・福祉 [*] 、電気、電子、建築)
三沢商業	商業	4	3	△1		(商業、情報処理)
計		43	※	34	※	△9

十和田西・六戸・三本木農業

→ 上北地区統合校

開校年度：平成33年度
使用校舎：三本木農業高校の校舎
学科構成：普通科2学級
農業科4学級
(植物科学・動物科学・
環境工学・食品科学)

<統合校における教育活動の方向性>

- 普通科：地域資源を活用した観光やボランティア等に関する学習に取り組む。
- 農業科：これからの農業経営に必要な力を身に付けるため、営農大学の教員や学生との交流等を推進する。
- 普通科と農業科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実や農業科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応する。

⑤下北地区<中学校卒業予定者数：H29 689人→H34 578人(△111)>

<期間内学級数の増減：△3～△4学級>

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次		第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	期間内増減	期間内増減	
田名部	普通	4	5	+1		英語科を普通科に改編 (普通)
	英語	1	0	△1		
大湊	総合	5	4	△1		(総合)
川内校舎	普通	1	0	△1		H31募集停止
大間	普通	2	※	2	※	地域校(普通)
むつ工業	工業	4	3	△1		(機械、電気、設備・福祉 [*])
計		17	※	14	※	△3



⑥三八地区<中学校卒業予定者数：H29 2,870人→H34 2,452人(△418)><期間内学級数の増減：△5～△6学級>

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次		第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	期間内増減	期間内増減	
八戸	普通	6	6			(普通)
八戸東	普通	5	5			(普通、表現)
	表現	1	1			
八戸北	普通	6	6			(普通)
三八地区統合校	普通			5	+5	H32募集開始
	スポーツ科学			1	+1	(普通、スポーツ科学)
八戸西	普通	4	0	△4		H32募集停止
	スポーツ科学	1	0	△1		
五戸	普通	2	0	△2		H32募集停止
三戸	普通	2	1	△1		(普通)
田子	普通	1	※	1	※	地域校(普通)
名久井農業	農業	3	2	△1		(生物生産、環境システム)
八戸水産	水産	3	3			(海洋生産、水産食品、水産工学)
八戸工業	工業	7	6	△1		(機械、電気、電子、土木、建築、材料技術)
八戸商業	商業	4	3	△1		(商業、情報処理)
計		45	※	40	※	△5

八戸西・五戸 → 三八地区統合校

開校年度：平成32年度
使用校舎：八戸西高校の校舎
学科構成：普通科5学級
スポーツ科学科1学級

<統合校における教育活動の方向性>

- 普通科：生徒の多様な適性、興味・関心、進路志望等に対応した教育に取り組む。
- スポーツ科学科：幅広い進路志望等に対応した教育に取り組む。
- 普通科とスポーツ科学科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実やスポーツ科学科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応する。

※ 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応することとなります。

- ・ 2学級規模の地域校：入学者数が40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として1学級規模とします。
- ・ 1学級規模の地域校：募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合、募集停止等に向け、当該高校の所在する市町村等と協議します。

計画的な統合に当たっての留意事項(P27)

- 統合の対象となる学校に入学した生徒は、**入学した学校で学び、卒業**することを基本とします。
- 統合の対象となる学校の教育活動を維持できるよう、教育課程の実施等に要する適正な教職員配置とともに学校行事をはじめとする特別活動や部活動等の**生徒の活動の場の確保**に努めます。
- 統合の対象となる学校の関係者等で構成する**開設準備委員会**をあらかじめ設置し、統合校の教育活動の充実に向け、統合校の新たな名称、教育活動、目指す人財像等について検討するとともに、統合の対象となる学校間における連携や各校のあゆみを伝えるための資料の展示等について協議します。
- 統合の対象となる学校の卒業生に係る卒業証明書等の発行や指導要録、沿革に係る資料の保存・管理等は、統合校が引き継ぎます。

地域校への対応(P27)

- 小規模校における教育活動の充実を図るため、各校との連携による教育活動に必要な施策を実施します。
- 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応します。1学級規模の地域校が基準に該当した場合、高校への通学が困難となる地域の生徒の通学への対応を含め、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けた協議を行います。

定時制課程・通信制課程(P28)

(1) 定時制課程

- 青森工業高校・弘前工業高校・八戸工業高校の工業技術科は、平成33年度に募集停止します。

(2) 通信制課程

- 募集人員の増減はありません。

第4 県民の理解と協力の下での県立高等学校教育改革の推進(P30)

推進計画の進捗管理(P30)

- 高校教育を巡る環境の変化や中学校卒業生数の見込み、生徒の志願・入学状況等を確認の上、第1期実施計画の取組状況について検証し、**必要に応じて実施計画を見直**します。
- これまで翌年度分を公表してきた募集人員について、中学生が見通しを持って進路選択できるよう、**翌々年度分の見込みを含め公表**することとします。

第2期実施計画の策定(P30)

- 第2期実施計画の策定に当たっては、地区意見交換会を開催するなど、地域の意見を聴取しながら検討し、**平成33年度の決定**を目指します。

県民の皆様のご意見等を募集しています

青森県教育委員会では、広く県民の皆様から「青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画（案）」に対するご意見・ご感想をいただき、検討を重ねた上で計画を策定したいと考えています。
多くのご意見・ご感想をお待ちしています。

◇ご意見・ご感想の宛先

〒030-8540 青森市新町2-3-1 青森県教育庁高等学校教育改革推進室
電話 017-734-9866 ファックス 017-734-8003

詳しくは、**青森県 高校改革** **検索**

ホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kenritukoutougakkoukyouikukaikaku.html>

メールアドレス E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp



参 考 資 料

第309回臨時会（平成29年4月）

●その他

青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画（案）について

P1～3

地区ごとの学校規模・配置等に関する考え方

1 全日制課程

(1) 東青地区

東青地区の中学校卒業予定者数は、平成34年までに462人の減少が見込まれることから、募集学級数を7学級減ずることとし、次のとおり計画的な学校規模・配置に取り組むこととします。

- 青森高校を普通科等の重点校とし、青森工業高校を工業科の拠点校、青森商業高校を商業科の拠点校とします。
- 青森北高校今別校舎については、募集停止することにより高校への通学が困難な地域が生じることから、地域校として配置します。
- 青森東高校平内校舎については、地区の普通科の学校配置の状況、地元生徒の志願・入学状況や他校への通学環境を考慮し、平成31年度に募集停止します。
- 地区の普通科等、職業教育を主とする専門学科、総合学科の選択肢を確保するとともに、中学校卒業予定者数、志願・入学状況等を考慮し、学校規模の標準を踏まえ、青森高校、青森西高校、青森東高校、青森工業高校をそれぞれ6学級規模とし、青森北高校、青森南高校、青森商業高校、青森中央高校をそれぞれ5学級規模として配置します。
- 2学級規模の浪岡高校については、通学環境や近隣の高校の配置状況等を踏まえ、引き続き2学級規模として配置します。

(2) 西北地区

西北地区の中学校卒業予定者数は、平成34年までに367人の減少が見込まれることから、募集学級数を6学級減ずることとし、次のとおり計画的な学校規模・配置に取り組むこととします。

- 五所川原高校を普通科等の重点校とし、五所川原農林高校を農業科の拠点校とします。

なお、重点校の学校規模は6学級以上を標準としていますが、五所川原高校については、地区の実情を考慮し、5学級規模とします。

- 中里高校及び木造高校深浦校舎については、募集停止することにより高校への通学が困難となる地域が生じることから、地域校として配置します。
- 西北地区では現在も小規模校が半数以上ある中、中学校卒業予定者数の減少を踏まえ、中・長期的な視点から計画的な学校配置を進めることにより、充実した教育環境を整備する必要があります。このことから、地区の学校配置の状況、志願・入学状況や通学環境等を踏まえ、平成33年度に金木高校、板柳高校、鶴田高校、五所川原工業高校を統合し、学校規模を維持するとともに、普通科及び工業科の選択肢を確保します。

また、統合後の学校は5学級規模とし、交通の利便性等を考慮し、五所川原工業高校の校舎を使用します。

- 地区の中学校卒業予定者数、志願・入学状況等を考慮し、学校規模の標準を踏まえ、木造高校、五所川原農林高校をそれぞれ4学級規模として配置します。

- 2学級規模の鱒ヶ沢高校については、志願・入学状況、近隣の高校の配置状況・公共交通機関の状況等を踏まえ、第1期実施計画においては1学級規模として配置します。

(3) 中南地区

中南地区の中学校卒業予定者数は、平成34年までに435人の減少が見込まれることから、募集学級数を5学級減ずることとし、次のとおり計画的な学校規模・配置に取り組むこととします。

- 弘前高校を普通科等の重点校とし、弘前工業高校を工業科の拠点校とします。
- 地区の学校配置の状況、志願・入学状況や通学環境等を踏まえ、平成32年度に黒石高校、黒石商業高校を統合し、学校規模を維持するとともに、普通科、看護科及び情報デザイン科における学びの選択肢を確保します。また、統合後の学校は5学級規模とし、交通の利便性等を考慮し、黒石高校の校舎を使用します。

なお、情報デザイン科における学習内容の引継方法（学科、コース等）については、開設準備委員会で検討します。

- 地区の普通科等と職業教育を主とする専門学科の選択肢を確保するとともに、中学校卒業予定者数、志願・入学状況等を考慮し、学校規模の標準を踏まえ、弘前高校、弘前中央高校、弘前南高校、弘前工業高校、弘前実業高校をそれぞれ6学級規模とし、柏木農業高校を4学級規模として配置します。

(4) 上北地区

上北地区の中学校卒業予定者数は、平成34年までに391人の減少が見込まれることから、募集学級数を9学級減ずることとし、次のとおり計画的な学校規模・配置に取り組むこととします。

- 三本木高校を普通科等の重点校とし、三本木農業高校（上北地区統合校）を農業科の拠点校とします。
- 六ヶ所高校については、募集停止することにより高校への通学が困難となる地域が生じることから、地域校として配置します。
- 地区の学校配置の状況、志願・入学状況や通学環境等を踏まえ、平成33年度に十和田西高校、六戸高校、三本木農業高校を統合し、学校規模を維持するとともに、普通科及び農業科の選択肢を確保します。

また、統合後の学校は6学級規模とし、交通の利便性等を考慮し、三本木農業高校の校舎を使用します。

- 地区の普通科等、職業教育を主とする専門学科、総合学科の選択肢を確保するとともに、中学校卒業予定者数、志願・入学状況等を考慮し、学校規模の標準を踏まえ、三本木高校を6学級規模、三沢高校を5学級規模、十和田工業高校を4学級規模、七戸高校、百石高校、三沢商業高校をそれぞれ3学級規模として配置します。
- 3学級規模の野辺地高校については、通学環境や近隣の高校の配置状況等を踏まえ、2学級規模として配置します。

(5) 下北地区

下北地区の中学校卒業予定者数は、平成34年度までに111人の減少が見込まれることから、募集学級数を3学級減ずることとし、次のとおり計画的な学校規模・配置に取り組むこととします。

- 田名部高校を普通科等の重点校とします。

なお、重点校の学校規模は6学級以上を標準としていますが、田名部高校については、地区の実情を考慮し、5学級規模とします。

- 大間高校については、募集停止することにより高校への通学が困難となる地域が生じることから、地域校として配置します。
- 大湊高校川内校舎については、地区の普通科の学校配置の状況、地元生徒の志願・入学状況や他校への通学環境を考慮し、平成31年度に募集停止します。
- 地区の中学校卒業予定者数、志願・入学状況等を考慮し、学校規模の標準を踏まえ、大湊高校を4学級規模、むつ工業高校を3学級規模として配置します。

(6) 三八地区

三八地区の中学校卒業予定者数は、平成34年度までに418人の減少が見込まれることから、募集学級数を5学級減ずることとし、次のとおり計画的な学校規模・配置に取り組むこととします。

- 八戸高校を普通科等の重点校とし、八戸工業高校を工業科の拠点校とします。
- 田子高校については、募集停止することにより高校への通学が困難となる地域が生じることから、地域校として配置します。
- 地区の学校配置の状況、志願・入学状況や通学環境等を踏まえ、平成32年度に八戸西高校、五戸高校を統合し、学校規模を維持するとともに、普通科及びスポーツ科学科の選択肢を確保します。

また、統合後の学校は6学級規模とし、交通の利便性等を考慮し、八戸西高校の校舎を使用します。

- 地区の普通科等と職業教育を主とする専門学科の選択肢を確保するとともに、中学校卒業予定者数、志願・入学状況等を考慮し、学校規模の標準を踏まえ、八戸高校、八戸東高校、八戸北高校、八戸工業高校をそれぞれ6学級規模、八戸水産高校、八戸商業高校をそれぞれ3学級規模として配置します。
- 3学級規模の名久井農業高校については、学科の選択肢を確保するとともに、近隣の高校の配置状況等を踏まえ、2学級規模として配置します。
- 2学級規模の三戸高校については、志願・入学状況、近隣の高校の配置状況・公共交通機関の状況等を踏まえ、第1期実施計画においては1学級規模として配置します。

2 定時制課程及び通信制課程について

- 定時制課程・通信制課程を希望する生徒の高校教育を受ける機会を確保するため、引き続き、定時制課程は県内6地区、通信制課程は県内3地区に配置します。
- 工業技術科については、志願・入学状況等を踏まえ、平成33年度に募集停止することとし、募集停止後も就職を目指す生徒に対応するため、他の定時制課程における職業教育を主とする専門科目の充実に向け検討することとします。
- 夜間部については、全県的に入学者数が減少傾向にあることなども踏まえ、今後その在り方について検討を進めます。